

令和元年度

摂津市地域包括支援センター業務評価

摂津市

<目的>

摂津市が定めた運営方針等をふまえ、効果的、効率的な業務がなされているかについて、適切に評価を行い、その結果を活かしてより良い運営や活動に向けた取組の充実を図るとともに、不十分な点については改善に向けた取組を行っていくことを目的としています。

<項目>

「摂津市地域包括支援センターの運営の実施に係る方針」および「摂津市地域包括支援センター業務委託仕様書」に基づき、評価項目を設定しています。

<基準>

次の2段階で評価します。

「1」…十分に業務を遂行できた。

「0」…十分には業務を遂行できなかったため、改善が必要である。

<手順>

- ①地域包括支援センターが「摂津市地域包括支援センター評価表」を用いて職員全員で検討し自己評価を行い、市へ提出します。
- ②自己評価に基づくヒアリングを市が行います。
- ③ヒアリングをふまえ、市が「摂津市地域包括支援センター評価表」を用いて評価を行います。
- ④評価結果について、摂津市地域包括支援センター運営協議会が承認を行います。
- ⑤承認された評価結果を、市がホームページ等で公表します。

<期間>

令和元年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）

<時期>

令和2年4月

●「令和元年度摂津市地域包括支援センターの運営の実施に係る方針」に基づくもの●

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|--------------------------|--|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 1 地域包括ケアシステムの構築 | <ul style="list-style-type: none"> センターは地域包括ケアシステムの実現に向けた中核的な機関であることを、全職員が理解している。 地域包括支援センターの周知活動に努めている。 <p>[周知活動の具体的な内容]</p> <p>[各地区の民生児童委員、自治会、老人クラブ、各高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）への周知活動：それぞれ年1回以上]</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケアシステムの中核的な機関であることを包括ミーティング等により伝えており、職員全員が理解している。 公共施設や医療機関、薬局などに加え、商業施設（コーナン）に地域包括支援センターのリーフレットを設置している。 民生委員地区長会に参加し、包括との交流や意見交換の場の設定を依頼している。 民生委員地区長会へ出席し、各校区の地区民協への出席の調整を依頼したが、新型コロナウイルス感染症予防対策により、年度内の日程調整がつかず、周知活動の実施に至らなかった。 各高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）へは各1回以上参加し、周知活動を実施した。 自治会、老人クラブへは働きかけを行えなかった。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 市民に対しての周知活動が不十分。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> リーフレットの設置箇所を増やして行く。特に安威川以南地域に設置を行う。 令和元年度に出来なかったわかりやすいリーフレットへの改良を行う。 各校区の地区民協への出席の日程調整を行い周知活動を行う。 各高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）への周知活動を引き続き行う。 自治会、老人クラブへの働きかけを新たに行う。 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 評価の指標とした自治会や老人クラブへの働きかけが行えていないことから「0」としました。 自治会、老人クラブ、各校区の地区民協へ出向いて、地域包括支援センターの認知度を向上させること、また、高齢者の総合相談窓口としての機能を1人でも多くの市民に知ってもらえるよう、効果的な周知活動を求めます。 より高齢者が足を運ぶ施設として、スーパー等の商業施設へリーフレットの設置を行ったことを確認しました。更なる設置場所の拡大を求めます。 リーフレットについて、より詳しい情報を掲載し、読みやすく目を引くようなリーフレットへの改良を求めます。 |
| 2 地域ごとのニーズに応じて重点的に行うべき業務 | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が集まる場に積極的に足を運び、実態把握を行っている。 地域ごとのニーズについて、センター内で情報共有を図り、検討を行っている。 <p>[地域ニーズにかかるセンター内ミーティングおよび社会福祉協議会地域福祉課とのミーティング：月1回以上]</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 毎月行う社協ミーティングと2か月に1回行う地域福祉課CSW等との連絡会において、地域ごとのニーズについて情報共有等を図り、検討を行っている。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者が集まる場に出向いての地域のニーズ把握が不十分。 地域ごとのニーズについて市や民生委員等の関係者との情報共有が不十分。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き社協内や市、民生委員等と連携し、地域の課題や対応策を協議する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会内部で、地域課題に関する情報共有が組織的に行われていることを確認しました。 引き続き民生児童委員協議会、校区等福祉委員会等の団体との連携や、地域活動とおして把握した地域ニーズをもとに、支援を展開することを求めます。 |
| 3 地域社会との連携及び専門職との連携構築 | <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議、認知症支援プロジェクトチーム会議、在宅医療・介護連携推進のための多職種連携研修会、暮らしの応援協議会（協議体）等の機会を活用し、地域社会や専門職と共通認識を持つことに努めている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域ケア会議を開催するとともに、多職種連携研修、認知症支援プロジェクトチーム会議等に参加し、認知症への取組をはじめ、高齢者が地域で長く暮らせるように、関係者間で検討や情報共有を行い、共通認識を持つよう努めている。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 関係者間で意識や役割の理解に乖離がある。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 会議の目的、それぞれの役割を理解してもらうように努め、各関係機関との連携を深める。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 各種会議や研修会等に出席していることを確認しました。 地域ケア会議では、地域の課題や個別の事例について共有していることを確認しました。 関係者間の意識や役割の理解の乖離を埋めるため、会議の出席の際の積極的な発言や働きかけを求めます。 また、地域社会との共通認識を持ち更なる連携を深めるため、地域ケア会議の活性化を求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|--------------------|---|---------------|--|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 4 介護予防ケアマネジメント | <ul style="list-style-type: none"> 介護予防・日常生活支援総合事業における介護予防ケアマネジメントにおいて、本人の持つ能力・興味・関心を引き出し、本人が自立的に取り組めるように努めている。 現行相当サービスのみならず、訪問型サービスA、通所型サービスC、一般介護予防サービスの活用を図っている。 <p>[訪問Aの活用件数] [通所Cの活用件数：実数で年15件以上] [高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）の活用件数：実数で年3件以上] [保健センター職員によるケアプラン作成に対する技術的助言の活用件数：実数で年5件以上]</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 自立支援を意識した介護予防ケアマネジメントに取り組んでいる。 介護支援専門員に対し、社会資源の活用の勉強会を開催し、訪問A、通所Cをはじめ、摂津市内の社会資源について周知を図り、活用を勧めている。 <p>[訪問Aの活用件数] 実数：3件 延17件</p> <p>[通所Cの活用件数] 実数：年 38件</p> <p>[高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）の活用件数] 実数：年 3件</p> <p>[保健センター職員によるケアプラン作成に対する技術的助言の活用件数] 実数：年 10件</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 現行相当サービス以外の活用数が少ない。 勸奨を行っても活用につながらない事例への対応が課題。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員の研修会において市民に対し多様な社会資源の活用ができるよう取り組む。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 好事例の発信や多職種の視点をとり入れる等、介護支援専門員や市民が自立支援についての具体的なイメージを持つことができるような働きかけを求めます。 また、多様な社会資源を活用することのメリットを周知する等、社会資源を効果的に利用してもらえるような働きかけを求めます。 |
| 5 介護支援専門員に対する支援・指導 | <ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員個々人の自主性を尊重し、介護支援専門員個々人の気づきを促している。 積極的に介護支援専門員への情報提供を行うとともに、ケアマネジメント支援・指導を行っている。 <p>[ケアマネジメント支援・指導の件数] ・介護支援専門員からの困難事例の相談に対して具体的な助言を行っている。 [困難事例相談の対応件数]</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員に対し声かけを行い、気づきを促している。 介護予防一部委託書類の確認時や介護支援専門員からの相談時に、必要に応じて3専門職で連携して対応し、経過を確認しながら支援・指導を行っている。 <p>[ケアマネジメント支援・指導の件数] 2071件 [困難事例相談の対応件数] 22件</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な支援や指導を十分に行えていないと言えない。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター内の勉強会や主任介護支援専門員連絡会を通し、スキルアップを目指す。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャー部会への支援や、個々のケアマネジャーに経過を確認する等、日々後方支援がされていることを確認しました。 引き続き、地域包括支援センターとケアマネジャーが一緒に考え取り組むことを求めます。 また支援がうまくいった事例等の検証を行い、ケアマネジャーがどのような状況で地域包括支援センターへ相談をするべきか情報発信を求めます。 |
| 6 地域ケア会議の運営 | <ul style="list-style-type: none"> 個別ケース会議を随時開催し、個別事例の課題を解決し、フォローアップを行っている。 <p>[個別ケース会議を活用した対応件数：年15件以上] ・介護支援専門員の資質向上の視点を持ち、各介護支援専門員が年に1回は個別事例を提供するよう働きかけを行っている。</p> | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 個別ケース会議開催と開催後の経過確認を行い、課題解決に努めている。 ケアマネジャー部会において、前年度の地域ケア会議個別ケース会議の報告を行い、個別ケースの事例提供への働きかけを行っている <p>[個別ケース会議を活用した対応件数] 年 10件</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャーから個別ケース会議の相談が少ない。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャー部会などを通じ、介護支援専門員に対し地域ケア会議の目的や事例選定についての認識を深めてもらい、個別ケース会議の開催件数を増やす。 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 事前にケースの課題整理がされ、当事者（ご本人・家族）が主体的になるよう進行していることを認識しました。 ケアマネジャー自らが、地域からの見守りや地域による支援についてより必要性を感じ、個別ケース会議の事例を提供する仕組みづくりを求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------|---|---------------|---|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| | <ul style="list-style-type: none"> さまざまな関係者が意見を述べる事ができるように努めている。 個別ケースの検討のみならず、その背景に存在する地域課題の把握を行うという視点を持っている。 決定事項を構成員が共有する仕組みを講じている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 参加する関係者が全員意見を述べられる様に努めている。 地域課題の把握を行う視点を持ち、会議を行っている。 会議終了後、課題をとりまとめて一覧にするなど、関係者が今後の方向性を共有するように努めている。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ・会議の目的や意義の共有が難しい。 <今後の取組> ・構成員に事前に目的や要点を伝えておくなどして、会議で意見を述べ易い雰囲気づくりを心がける。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・進行にあたり、事前に地域課題の論点整理やレジメを配付する等、地域の参加者がより主体的にのぞめるよう働きかけを求めます。 |
| 7 市との連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・市への報告、連絡、相談を適宜行い、情報の共有を図っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の地域包括連絡会、及び適宜市への報告、連絡、相談等、情報の共有を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> ・引き続き市との連携を密に図る。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の地域包括連絡会、及び適宜市への報告、連絡、相談等、情報の共有を行っています。 |
| 8 公正・中立性の確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・センターは公正・中立でなければならないことを全職員が理解している。 ・サービスが特定の事業者に偏らないよう配慮している。 [訪問介護および通所介護のサービス事業者占有率が50%未満] ・センター職員以外が事務所内に入らないようにしている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・包括ミーティング等において伝えており、公正、中立でなければならないことを全職員が理解し業務を行っている。 ・特定のサービス事業所に偏らないよう配慮している。 [訪問介護の最大占有率] 16.76% [通所介護の最大占有率] 10.20% ・センター内に職員以外が入らないよう、窓口、相談室、ロビーで対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> ・引き続き公正・中立でなければならないことを理解し業務を行う。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、公正・中立な運営の継続をお願いします。 |
| 9 緊急時の態勢整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・夜間・休日の連絡態勢を整備している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターのリーフレット及び社協のホームページに夜間や休日は市役所に対応頂くよう記載しており、緊急連絡網も作成している ・緊急時は①当番職員②センター長③係長が対応している。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> ・社協の体制上、可能な対応を継続する。今後は、緊急対応の内容、頻度などを勘案しながら、市との協議が必要。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターリーフレット及び社会福祉協議会ホームページに夜間・休日の連絡先として市の代表電話番号を掲載し、市からの連絡を受ける体制をとっていることを確認しました。 ・緊急時の対応が迅速に行えるよう、地域包括支援センターが直接連絡を受ける体制を整備することについての検討を求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------------------------------|---|---------------|---|--|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| ●「令和元年度摂津市地域包括支援センター業務委託仕様書」に基づくもの● | | | | | | |
| 一般介護予防事業 | | | | | | |
| 1) 介護予防講座の普及・啓発 | <ul style="list-style-type: none"> 「はつらつ元気でまっせ講座」や「高齢者通いの場」等の普及・啓発を図っている。 〔「はつらつ元気でまっせ講座」や「高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）」の普及・啓発の件数：年3件以上〕 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 摂津小学校区のサロン（3カ所）参加時や市民対象の研修会開催時に普及・啓発を行った。 窓口での相談内容や対象者の状態によっては、高齢者の通いの場を紹介し、チラシを渡した。 〔「はつらつ元気でまっせ講座」や「高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）」の普及・啓発の件数〕年 4件 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> ・今後も引き続き、計画的に普及・啓発を行う。 ・窓口での相談ケースで対象と思われる方や要支援認定を受けていてサービス未利用者に対しても、高齢者の通いの場を案内していく。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）の普及・啓発に加え、生活支援コーディネーターが作成した「高齢者地域活動マップ」等を用い、趣味や体操等、より利用者のニーズに沿った活動先を提供することを求めます。 |
| 2) 介護予防講座自主グループ化への支援 | <ul style="list-style-type: none"> 「はつらつ元気でまっせ講座」に積極的に参画することで受講者への働きかけを行い、自主グループ化への支援を行うとともに、健康づくりグループへの加入促進を行う。 〔健康づくりグループへの加入促進数：すべての受講者数〕 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に講座を修了し、4月に1か月後のフォローとして出向いたグループに健康づくりグループ加入の働きかけをしたが、加入されなかった。 ・令和元年度に開催された講座（1件）から健康づくりグループに加入したグループはなかった。この講座を受講したグループはすでに大学等と協力し積極的に活動しているグループであった。 ・以前に講座を修了し、活動を継続していたグループが健康づくりグループに新たに加入した。（1件） 〔健康づくりグループへの加入促進数：1件 すべての受講者数：16人〕 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ・講座終了後、自主グループ活動は継続しても、すぐに健康づくりグループに加入とはならない場合がある。 <今後の取組> ・関係機関とも連携を図り、講座終了後半年程度経過した後、健康づくりグループ加入を促してみる。 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・加入可否の理由の分析を行うことを求めます（加入しなかった理由は、大学などと協力をして積極的に活動をしているグループであったためか、それとも違う理由があったのか。また、講座終了後は健康づくりグループに加入していなかったにも関わらず、後から加入したグループがあったことは、なぜなのか）。加入可否の理由によって、今後、事務局としてアプローチをかけるポイントが明確になるかと思っています。 |
| 3) 老人クラブや民生児童委員等への支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブや民生児童委員等、地域で活動する組織に働きかけ、介護予防活動を活発に行えるよう、支援を行っている。 〔老人クラブ支援の件数：年1件以上〕 〔民生児童委員支援の件数〕 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・出前講座として老人クラブに出向き、フレイル予防の話をしたり、生活支援コーディネーターと老人クラブに出向き、感染予防の目的で手洗いの仕方や咳エチケットについて啓発を行った。 〔老人クラブ支援の件数〕年 2件 〔民生児童委員支援の件数〕0件 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ・老人クラブ以外の地域で活動する組織に対する支援ができていない。 <今後の取組> ・生活支援コーディネーターとの連携を深め、できるだけ多くの地域で活動する組織に対して、介護予防に対する情報を積極的に提供していく。 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・補助型つどい場として地域で活動する団体に対して、地域包括支援センターの認知度アップと、介護予防等に関する情報提供の積極的な実施を求めます。 |
| 4) 「せついきいき健康づくりグループ」への支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・「せついきいき健康づくりグループ」への支援を通じた地域での介護予防の場づくりとその展開を行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・事務局として、年2回の交流会開催に向け、定期的な会議の開催や会議進行の支援をし、健康づくりグループとの連携を図った。 ・体力測定に出向いたり、研修会の案内を行った。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取組> ・今後も交流会開催が継続できるよう、関係機関と連携を図る。 ・体力測定に出向いたり、介護予防に関する情報を提供していく。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 健康づくりグループに所属しているが、いきいき体操の会が支援をしていないグループを中心に情報提供をする等、交流の少ないグループへの支援を求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|---------------------------------|--|---------------|---|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 5)介護保険サービスを利用していない要支援認定者へのアプローチ | ・通所型サービスCや高齢者通いの場（委託型つどい場、補助型つどい場、街かどデイハウス）の利用につながりそうな要支援認定者へのアプローチを行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防会議（地域包括支援センター保健師等チーム、高齢介護課の保健師、保健センターセラピスト）において、協議を重ね、介護保険未利用者の中でも、通い場に行けそうな人、通所型サービスCに適応される人について検討した。 ・保健センターセラピストと協力しながら、骨関節疾患等のある方に対して、電話や訪問でのアプローチを図り、通所型サービスCや通いの場の案内を行った。 | <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も保健センター職員と協力し、通所型サービスCや通いの場への案内を、現状悪化の予防を目的として働きかけていく。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・通所型サービスCやつどい場等の社会資源につながる事例の選定や、介入に向けた協議が行われていることを確認しました。 ・通所型サービスCの終了者が、身近なつどい場や健康づくりグループにつながる支援を求めます。 |

包括的支援事業

①総合相談支援業務

| | | | | | | |
|---------------------|--|---|--|--|---|---|
| 1)様々な関係者とのネットワークの構築 | ・ライフサポーター、民生児童委員、ボランティア、介護保険事業者、医療関係者とのネットワーク構築を行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサポーター、民生児童委員、ボランティア、介護保険事業者、医療関係者、CSW、生活支援コーディネーターとのネットワーク構築を行った。 ・民生児童委員地区長会に参加し、地域包括支援センターの職員と各地区の民生児童委員との交流を深められるように働きかけを行った。 | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題解決のためにネットワークを広げる必要がある <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区の民生児童委員協議会に出向き、高齢者の情報と地域の課題を共有する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会内部での情報共有が定期的に行われていること、他機関にも積極的に出向いて関係を構築されていることを確認しました。 |
| 2)高齢者世帯の実態把握 | ・孤立している高齢者や重層的な課題を抱えている高齢者等、潜在する高齢者の把握を行っている。 [問題が潜在する高齢者の把握件数] | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・相談対応時にケースの把握や対応を行っている。 <p>[問題が潜在する高齢者の把握件数] 11件 対応した一例：アパートの大家からの相談 一人暮らし。記銘力の低下あり。ゴミ屋敷で電気・ガス代も滞納。ストーブによる火事が心配と近所の住人から大家に苦情が入った。何度か訪問しゴミの片づけを一緒に行い、介護保険でヘルパーの利用を開始。ライフラインも利用できるように支援。金銭管理ができないので後見制度も利用できるように関係機関と連携。区分変更も申請し、より多くサービス利用ができるように対応していった。</p> | <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立している高齢者や重層的な課題を抱えている高齢者は増加しているが発見、把握するのは困難。 <p><今後の取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・市や関係機関との連携を密に図り、地域包括支援センターへの直接の相談対応時以外の経路を増やし、ケースの把握に努める。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・初回相談のみではアセスメントの難しい事例について、丁寧に情報収集をし、訪問を重ねることで、潜在するニーズを把握されていることを確認しました。 ・既に他機関（市含む）が状況を把握し、支援している場合もあるため、介入前には地域包括支援センターと市で事前に共有することの必要性を双方で認識しました。 ・ライフサポーターによるひとり暮らし高齢者訪問や75歳到達者訪問、地域福祉課のCSWや生活支援コーディネーター等、既存の取組や支援者と連携し、孤立している高齢者や重層的な課題を抱えている高齢者を把握することを求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-----------------|--|---------------|--|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3) 初期段階の相談対応 | <ul style="list-style-type: none"> 相談に速やかに対応し、信頼関係の構築に努めている。 いつでも緊急性の判断を行えるよう、チェックリスト等の活用を行うとともに、専門性をふまえた対応を行っている。 緊急性が高いと判断した際に、速やかに訪問するなど適切な対応ができています。 <p>[緊急性が高いと判断し、訪問を行った件数]</p> | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 令和元年度にチェックリストを作成し、緊急性の判断が迅速かつ的確に行えるようにした。 <p>[緊急性が高いと判断し、訪問を行った件数] 4件</p> <ul style="list-style-type: none"> C S Wより相談。介護者（息子）の体調が悪いとの連絡。息子の状態確認と高齢者（母）に対し介護サービスの調整が必要であった。 主治医より患者が診察日に来ないとの連絡。脳梗塞等の疾患があり安否が心配とのことで訪問する。 ライフサポーターより受診拒否の高齢者の相談があり、状態確認の為に訪問する。 病院のMSWより救急で入院中の患者の家族と連絡がつかず。家族の安否が心配との相談で訪問する。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> チェックリストの活用により、全職員が緊急訪問の判断ができるようにする。 <今後の取組> 緊急時の対応が速やかに行えるようにし、必要時には関係機関との連携を図り対応する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談の緊急訪問チェックリストを作成し、緊急時に活用されていることを確認しました。 緊急介入前に地域包括支援センターと市の間で十分な情報交換をしていくことの必要性を双方で認識しました。 |
| 4) 継続的・専門的な相談支援 | <ul style="list-style-type: none"> 策定した支援方針を記録に残し、それに基づいた支援を行っている。 個別の支援に関する悩みや困っていることについて、常に3専門職がチームとして話し合う機会を設けている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 安威川以北、以南チームでのミーティングや専門職で方針を検討し、支援経過を記録し、経過を確認している。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 重層的課題の相談が多く、継続的な対応や経過の確認が十分でない。 <今後の取組> 市、関係機関と連携し定期的に確認する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター内で定期的な連絡会が行われていることを確認しました。 引き続き市との連絡会等を活用し、専門職のそれぞれの特性を活かした支援方針が出せるよう求めます。 |

②権利擁護業務

| | | | | | | |
|----------------|---|---|--|--|---|--|
| 1) 高齢者虐待への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が高齢者虐待防止法を理解しており、説明できる。 チームで役割分担を行っている。 本人だけでなく養護者への支援も行っている。 高齢者虐待防止の早期発見につながるための啓発活動を市と連携して行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター内で内部研修を実施している。 社会福祉士でマニュアルを作成し、虐待対応のスキルアップを図っている。 養護者への支援も行っている。 虐待防止のチェックリストを介護支援専門員に配付し、早期発見に繋がる啓発を行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 予防的観点からの養護者（特に男性介護者）への支援が不十分である。 <今後の取り組み> 養護者へのサポート体制（認知症や介護技術の講座など）を構築する。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士の作成したマニュアルや虐待防止のチェックリストは、虐待対応やケアマネジャーからの相談対応等の基礎となるものと思われます。今後も活用しながら、さらなるスキルアップを図るようお願いします。 養護者支援は、他機関との連携が重要で、早期に養護者支援につながるため、引き続き地域包括支援センターを中心とした関係機関や地域とのネットワークづくりをお願いします。 |
| 2) 成年後見制度の活用促進 | <ul style="list-style-type: none"> 全職員が成年後見制度を理解しており、説明できる。 相談に適切に対応し、申立の支援を行っている。 <p>[成年後見申立の支援件数]</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の高齢者や関係機関に成年後見制度に関する啓発活動を市と連携して行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センター内で内部研修を実施している。 市民や支援者からの成年後見制度についての相談に対応し、申立ての支援を行っている。 出前講座や関係機関との交流の場などで市と連携して制度の啓発を行っている。 <p>[成年後見申立て件数] 15件</p> | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 申立て支援をする上で、個人情報書類の取り寄せが困難な場合がある。 <今後の取組> 成年後見申立て支援について、今後も市と連携、協議し迅速に対応していく。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 出前講座等を活用し、地域の高齢者に向けた制度の啓発を行うことを求めます。 関係機関だけでなく、地域の高齢者に対する成年後見制度の普及啓発が必要とされます。全職員が説明できるという前提から、様々な場面で普及啓発の場を設けることも良いかと考えます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|-------------|--|---------------|--|--|------|--|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 3) 消費者被害の防止 | <ul style="list-style-type: none"> 消費者被害の動向を把握している。 消費生活相談ルームや警察等との連携を行っている。 地域の高齢者や関係機関に消費者被害に関する啓発活動を市と連携して行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 消費者被害についての最近の傾向や被害状況を把握し、高齢者への注意喚起を行っている。 市産業振興課で実施している自動通話録音装置の貸し出しについて、対象となる高齢者に紹介している。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> ライフサポーターとの連携はできてはいるが、他の機関との連携が不十分。 <今後の取組> 最新の詐欺の手口などの情報を関係機関より収集し、被害の防止、早期発見に努める。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ライフサポーターだけでなく、CSWや地域住民等とも連携を図り、消費者被害についての最近の傾向や被害状況を把握し、高齢者への注意喚起を引き続きお願いします。 |
| 4) 措置の支援 | <ul style="list-style-type: none"> 市が行う老人福祉施設等への措置の支援として、訪問調査による事実確認等を適宜行っている。 | — | <ul style="list-style-type: none"> 今年度は老人福祉施設等への措置の支援要請はなかった。 | <ul style="list-style-type: none"> <今後の取り組み> 本人、関係者への聞き取りなど、事実確認の訪問調査を市と協力して行う。 | — | <ul style="list-style-type: none"> 措置は市が実施するものですが、措置に至るまでの経過や措置実施後の対応について、今後も市と地域包括支援センターで連携して対応していきたいと考えています。 |
| 5) 困難事例への対応 | <ul style="list-style-type: none"> 困難事例の情報共有を行い、対応終了後に事例のふり返しを行っている。 解決にむけて関係機関と連携している。また、その関係性を継続するための取組を行っている。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 関係者（事例によってケアマネジャー、市各課担当者、社協、医療従事者など）で集まり、情報共有を行っている。状況変化時には関係者間で電話やカンファレンスを繰り返し、終了後には振り返りを行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 法的根拠を必要とする事案もあり、職員のスキルが求められる。 <今後の取組> 弁護士相談に適切に繋ぎ、問題解決と職員のスキルアップを図る。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 困難事例において、弁護士相談を積極的に活用し、法的根拠の整理や理解を深め、さらなるスキルアップを図るとともに、地域包括支援センター全体での情報共有を行うことを求めます。 |
| 6) 研修会の開催 | <ul style="list-style-type: none"> 介護保険事業所職員や市民等を対象とする、高齢者権利擁護にかかる研修会や出前講座を開催している。 [研修会開催の回数：年 1回以上] [出前講座開催の回数：年 5回以上] | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 訪問介護事業所職員に対し、高齢者虐待防止研修会を実施した（1回） 介護支援専門員への法定外研修で、高齢者虐待防止研修会を実施した（1回） 市開催の施設管理者、中堅職員対象の高齢者権利擁護研修に協力した（2回） 出前講座（3回） | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 虐待防止、権利擁護の研修を受講したことで速やかに職員の意識を変えることは難しい。 <今後の取組> 一朝一夕に職員の意識変革は難しいが、内容を精査しながら、今後も研修を継続していく。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 虐待防止、権利擁護の研修を受講したことで速やかに職員の意識を変えることは難しいですが、権利擁護について、継続的に研修を行っていく必要があると考えます。引き続き、法定外研修の実施や、市の権利擁護研修への協力を求めます。 |

| ③包括的・継続的ケアマネジメント支援業務 | | | | | | |
|----------------------|---|---|--|--|---|--|
| 1) 包括的・継続的なケア体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 医療機関や介護保険事業所との連携体制を得られやすいような働きかけを行っている。 様々な社会資源を活用できるような地域の連携・協力体制の整備を図っている。 介護保険事業所職員や市民を対象とする研修会や出前講座について、計画書を市へ提出し、開催している。 [研修会開催の回数：年 2回以上] [出前講座開催の回数] | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 様々な社会資源の活用ができるよう、研修会を行った。 令和元年度は社会資源の研修会と障害福祉相談員との研修会（事例検討会）を行った。 <p>[研修会開催の回数] 年 2回 [出前講座開催の回数] 0回</p> | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 新たな社会資源の情報把握が必要。 社会資源の活用が十分に出来ていない。 <今後の取組> 令和 2年度も障害福祉相談員との研修会（事例検討会）を10月に開催予定。障害福祉との連携を深める。 社会資源の活用ができるように働きかける。 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> 障害福祉相談員との研修会を行ったことを確認しました。 出前講座の開催回数が0回であることから、「0」と評価しました。 介護支援専門員や介護保険事業所がより円滑に業務を行えるよう、障害福祉相談員のみならず、医療機関をはじめとした関係機関との連携体制の構築を求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|----------------------------|--|---------------|---|---|------|---|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |
| 2) 地域における介護支援専門員のネットワークの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 主任介護支援専門員間の連携を図るとともに、ケアマネジャー部会の支援を行っている。 [主任介護支援専門員連絡会開催の回数：年 1回以上] | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 昨年度は 2回ケアマネジャー部会への支援を行った。(3月に開催予定であったが新型コロナウイルス感染対策にて中止) 主任介護支援専門員連絡会を行った。 [主任介護支援専門員連絡会開催の回数] 年 1回 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 介護支援専門員の困りごとやスキルアップについて、情報集約が必要。 <今後の取組> 介護支援専門員間のコミュニケーションや研修等の開催方法を検討し、調整を図る。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ケアマネジャー部会への支援を行っていることを確認しました。 介護支援専門員に対して適切な後方支援が行えるよう、地域包括支援センター職員がより一層のスキルアップや情報収集を行うことを求めます。 市内で活動する介護支援専門員が、地域包括支援センターに対して困り事や課題等の相談を行い、また、解決に向けた取組を行えるよう、引き続き連携を図ることを求めます。 |
| ④地域ケア会議推進業務 | 上記の「6. 地域ケア会議の運営」に記載。 | — | — | — | — | — |
| ⑤認知症総合支援業務 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症支援プロジェクトチームに参画し、センターの役割を發揮している。 認知症サポーター養成に協力している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症支援プロジェクトチームに参画し、徘徊模擬訓練等の準備や調整を行っている。RUN伴に参加し認知症の啓発を行った。 認知症サポーター養成講座への講師派遣を5回行った。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 認知症の早期発見、予防の働きかけが不十分である。 <今後の取組> 認知症の理解や対応についての周知を行う。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症支援プロジェクトチームに参画し、徘徊模擬訓練等の準備や調整を行う等、地域包括支援センターの役割を発信できていることを確認しました。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談において認知症の相談を受けている。 [認知症相談の件数] 訪問対象者に該当する場合に、認知症初期集中支援チームに情報を提供している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 総合相談において認知症の相談対応を行っている。 [認知症相談の件数] 227件 初期集中支援チームに情報を提供している。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 本人や家族に認知症の自覚のない相談が増えており、対応に時間を要する。 <今後の取組> 関係者と連携を強化し、対応を行う。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 介入困難(本人・ご家族に困り感がない等)事例含み、昨年実績とほぼ同件数を支援されていることを確認しました。 初期集中支援チーム(市に設置)との連携や警察からの情報提供(市が受理)等の活用を引き続き求めます。 |
| ⑥在宅医療・介護連携推進業務 | <ul style="list-style-type: none"> 「在宅医療・介護連携推進事業」企画会議に参画し、センターの役割を發揮している。 在宅医療・介護連携推進のための多職種連携研修会に参画している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携推進事業の企画会議に参画している。 在宅医療・介護連携推進のための多職種連携研修会に参画し、参加する介護支援専門員に対して、事前に、研修の趣旨やグループワークの趣旨を伝えている。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 関係機関の連携が十分ではない。 <今後の取組> 日頃から介護支援専門員に対し在宅医療・介護連携推進事業についての聞き取り等を行う。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 在宅医療・介護連携推進事業の企画会議や多職種連携研修会に参加していることを確認しました。 医療と介護の連携に関する相談窓口を活用することを求めます。 市をはじめとした関係機関との連携に関する課題を共有して課題の解決に向けた取組を行えるよう、積極的に関与することを求めます。 |
| ⑦生活支援体制整備業務 | <ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターとの連携を図っている。 暮らしの応援協議会(協議体)に参画している。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 地域の課題において地域福祉課生活支援コーディネーターとの連携を図っている。 暮らしの応援協議会に参画している。 | <ul style="list-style-type: none"> <課題> 生活支援コーディネーターとより密な連携が必要である。 <今後の取組> 地域の社会資源の情報共有の場を多く持つ。 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーターと、より綿密に地域資源についての情報共有を行うよう求めます。 また、地域包括支援センターで支援をしている人への対応として地域資源を紹介する際、相談先として、生活支援コーディネーターを有効に活用することを求めます。 |

| 評価項目 | 評価の指標 | 地域包括支援センター記入欄 | | | 市記入欄 | |
|------|-------|---------------|------|----------|------|-------|
| | | 自己評価 | 評価理由 | 課題と今後の取組 | 市評価 | 市コメント |

介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援事業

| | | | | | | |
|------------------|--|---|--|---|---|--|
| 自立支援に向けたケアマネジメント | 上記の「4. 介護予防ケアマネジメント」に記載。 | — | — | — | — | — |
| 直営担当件数 | ・3専門職種、介護支援専門員のそれぞれにおいて、職員の直営担当件数に偏りがなく、適正な件数となっている。 | 1 | ・3専門職種と介護支援専門員が各々の業務に集中できるように直営担当数の見直しを行った。 | <課題> ・業務の多様化、要支援認定者の増加により、直営担当分に対応する時間が取れなくなってきている。 <今後の取組> ・アセスメント、ケアプラン作成等、ケアマネジメント業務をそれぞれが再確認し、業務の効率化を図る。 | 1 | ・一定の見直しを行っていることは確認しましたが、依然として偏りが見られます。引き続き、直営担当件数の見直しを行うことを求めます。 |
| 委託の適正化 | ・委託先の指定居宅介護支援事業所が作成する介護予防サービス計画の原案が適切に作成されているか内容の妥当性等について確認を行っている。 | 1 | ・地域包括支援センター内でのミーティングにて委託書類の窓口でのチェック箇所を全職員に周知している。委託書類提出時に窓口で確認したうえで、受付後に担当職員による確認を行っている。 | <課題> ・委託件数の増加により、書類の確認に時間がかかっている。 <今後の取組> ・地域包括支援センター内での委託担当件数の見直しを行う。 ・提出されたプラン一式の確認事項を共有する。 | 1 | ・窓口にて、書類の確認がスムーズにできるよう工夫されていることを確認しました。 ・依然として委託件数の担当割合に偏りが見られます。引き続き、職員間の委託担当件数について改善を行うことを求めます。 |
| | ・委託先の指定居宅介護支援事業所が評価を行った際に、評価の内容について確認を行っている。 | 1 | ・委託先の介護支援専門員から提出された評価や支援経過を確認し、地域包括支援センター担当職員よりコメントの記入を行っている。 | <課題> ・委託件数の増加により書類の確認に時間がかかっている。 <今後の取組> ・地域包括支援センター内での委託担当件数の見直しを行う。 ・提出されたプラン一式の確認事項を共有する。 | 0 | ・地域包括支援センター担当職員のコメントの記入がされていないケースが見られたため、「0」と評価しました。 ・一定の見直しを行っていることは確認しましたが、依然として偏りが見られます。引き続き、委託担当件数の見直しを行うことを求めます。 |

32
/33

27
/33